

岡山県感染症週報 2018年 第44週 (10月29日～11月4日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2018年 第44週 (10/29～11/4) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第42週	2類感染症	結核	1名 (70代 女)
第43週	2類感染症	結核	1名 (20代 男)
	5類感染症	急性弛緩性麻痺	1名 (幼児 男)
		梅毒	1名 (50代 男)
第44週	2類感染症	結核	9名 (10代 男 1名、20代 男 5名、30代 男 1名・女 1名、70代 男 1名)
	4類感染症	レジオネラ症	1名 (50代 男)
	5類感染症	百日咳	2名 (小学生 男 1名、30代 男 1名)
		風しん	1名 (30代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で75名(定点あたり1.07→1.39人)の報告があり、前週から増加しました。

○流行性角結膜炎は、県全体で17名(定点あたり0.92→1.42人)の報告があり、前週から増加しました。

【第45週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 1名(O26:幼児 女)の発生がありました。(11月7日)

1. **風しん**は、第44週に1名の報告があり、2018年第44週までの累計報告数は15名となりました。風しんは、妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、注意が必要です。また、成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。全国の発生状況など詳しくは、**今週の注目感染症**をご覧ください。
2. **梅毒**は、第44週までで141名の報告がありました。梅毒患者の報告数が急増した昨年の同時期(148名)と同程度の多くの患者が報告されています。中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代および20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。また、全国では先天梅毒の報告が相次いでいます(第43週までで昨年5名、今年14名)。梅毒の詳細は、**コラム**をご覧ください。
3. **腸管出血性大腸菌感染症**は、2018年第44週までの累計報告数が61名となっています。今後も発生がつづく可能性があることから、岡山県は「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
4. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で75名(定点あたり1.07→1.39人)の報告があり、前週から増加しました。地域別では、岡山市(3.07人)、倉敷市(1.45人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
5. **流行性角結膜炎**は、県全体で17名(定点あたり0.92→1.42人)の報告があり、前週から増加しました。地域別では、備前地域(5.00人)、倉敷市(2.25人)で定点あたりの報告数が多くなっています。この感染症は、アデノウイルスによる眼の感染症で、8～14日の潜伏期間の後、まぶたの浮腫、結膜の充血、眼脂(目やに)、流涙、眼痛などの症状を呈します。有効な薬剤はなく、対症療法による治療が行なわれます。このウイルスは、感染力が強く、人と接触する機会の多い家庭や職場、病院などで流行します。感染した際には、眼を触らないよう気を付け、触ったら石鹸と流水でよく手を洗う、タオルや洗面器などの共用は避ける、家庭内での入浴は最後にするなど、感染拡大防止に努めてください。
6. **インフルエンザ**は、県全体で14名(定点あたり0.15→0.17人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。県内の発生状況など、詳しくは「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『**2018/2019年シーズン インフルエンザ情報**』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	ヘルパンギーナ		★★
流行性耳下腺炎		★	急性出血性結膜炎		
流行性角結膜炎		★★	細菌性髄膜炎		
無菌性髄膜炎			マイコプラズマ肺炎		
クラミジア肺炎			感染性胃腸炎(ロタウイルス)		

【記号の説明】 前週からの推移：
：大幅な増加
：増加
：ほぼ増減なし
：減少
：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減
 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

風しん患者報告数は、首都圏を中心に急増していましたが、現在では全国に感染が拡大しつつあります（第43週まで：1,692名、第44週まで（速報値）：1,884名。直近3年間では年間93～163名）。中国・四国地方では、第44週まで（速報値）で広島県：22名、岡山県：15名、山口県：8名、香川県：5名などが報告されています。

また、この度報告数が増加した風しん患者は、男性が女性の5倍程度と多くを占めており、中でも特に抗体価が低いとされる、30代～40代の男性が中心となっています（男性患者全体の約6割）。

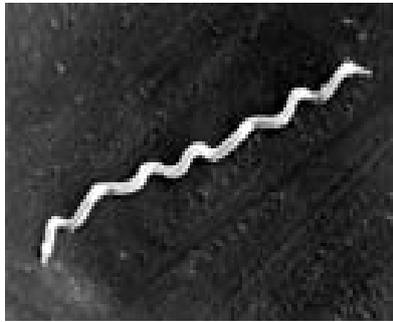
●先天性風しん症候群とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。

●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。

予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「風しんの予防について」



依然として増えている・・・

梅毒（性感染症）に 気をつけましょう！

梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真
(国立感染症研究所 HP より)

●岡山県で梅毒の患者が急増しています

昨年、岡山県では梅毒患者の報告数が急増しましたが、今年も同様に多くの患者が報告されています（第 44 週まで：昨年 148 名 ⇒ 今年 141 名）。

中でも、若年層の患者の報告が多く、特に 10 代・20 代の女性患者の増加に注意が必要な状況です（第 44 週まで：昨年 患者全体の 14.9% ⇒ 今年 22.0%）。

岡山県は全国的にも届出が多く、2018 年 7 月から 9 月でみると、人口 100 万人あたりの届出が、東京都、大阪府に次ぎ全国 3 位（2018 年 4 月から 6 月と同様）となっています。全国的にも患者は近年増加傾向を示しており、若年者を中心としたまん延が懸念されています（第 43 週まで：昨年 4,814 名 ⇒ 今年 5,674 名）。

●「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたします（早期顕症梅毒）。一方症状の見られない時期もあり（無症候）、多様な症状を示すのが特徴です。進行により心血管系や、脳・脊髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障がいをもたらします（晩期顕症梅毒）。また妊婦の感染では胎児に様々な障害をきたします（先天梅毒）。

●男女とも早期で見つかることが多いですが、女性では無症候も多くみられます！

また、全国では先天梅毒の発生報告が相次いでいます！

（第 43 週まで：昨年 5 名 ⇒ 今年 14 名）

●梅毒以外にも注意すべき性感染症はあります

性行為を通じ感染する感染症は梅毒以外にも、例えば HIV、クラミジア、ヘルペス、淋病など多くあります。これらの感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

岡山県の保健所・支所では梅毒等の性感染症検査を無料・匿名で受けることができます！

- *岡山県の保健所（岡山市・倉敷市を除く）では、梅毒以外にも HIV・性器クラミジア・B 型肝炎・C 型肝炎の検査も同時に受けることができます。
- *検査は無料・匿名で受けることができます。
- *通常検査では 1 週間後、迅速検査では 1 時間後に結果をお知らせしています。
- *確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3 か月たって検査することをおすすめします。
- *事前に電話で予約が必要です（保健所によっては予約不要の日時もあります）。

○県内 11 か所の保健所・支所における性感染症等検査の日時、予約方法はこちらから

→ [【平成 30 年度 保健所における HIV 検査・性感染症検査・肝炎検査日時】](#)

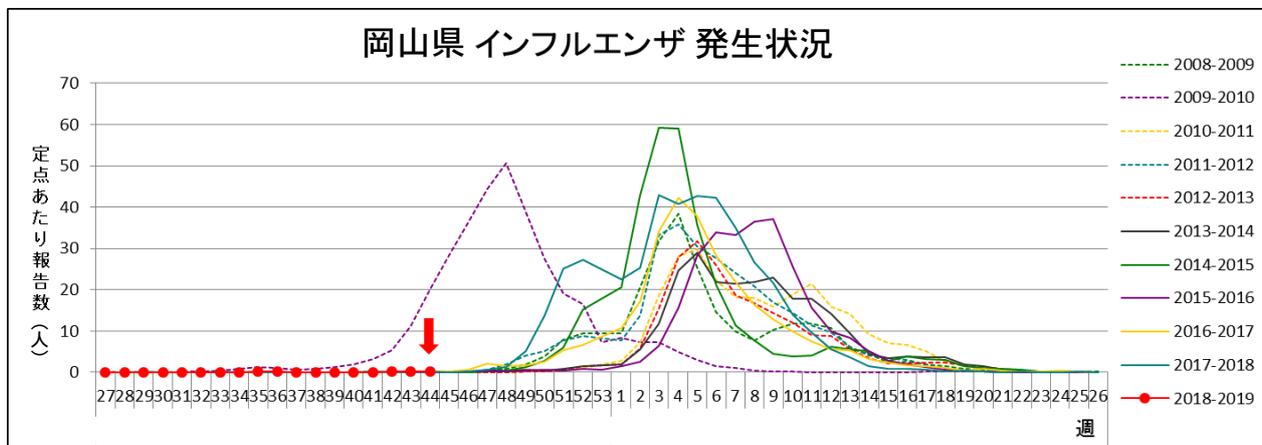
[日本の梅毒症例の動向について（国立感染症研究所）](#)

[ストップ！梅毒（日本性感染症学会）](#)

インフルエンザ週報 2018年 第44週 (10月29日～11月4日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で14名(定点あたり0.17人)の報告がありました(84定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、岡山市で6名、備中地域で3名などの報告があり、県全体では14名(定点あたり報告数0.17人)の発生となっています。今シーズン(2018/9/3～)は、第36週(9/3～9/9)から散発的に患者が報告されており、第39週(9/24～9/30)、第40週(10/1～10/7)および第42週(10/15～10/21)にそれぞれ入院患者1名の報告がありました。患者の発生は少数にとどまっています。

全国の第43週(10/22～10/28)の発生状況は、定点あたり報告数が0.19人であり、今シーズンに入ってから徐々に増加しています。都道府県別では、沖縄県(2.10人)、三重県(1.13人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、流行開始の目安(定点あたり1.0人)を超える都道府県は、2県となっています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常12月に入ってからといわれますが、岡山県では第39週に学校等の臨時休業が報告されており、全国でも、すでに第36週からインフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が報告されています。外出後は手洗いを励行し、感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2018年第43週 \(国立感染症研究所\)](#)

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

[インフルエンザ 関連情報 2018/2019 シーズン インフルエンザワクチン株 \(国立感染症研究所\)](#)

1. 地域別発生状況

前週からの推移(単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	14	↗	備中	患者数	3	↗
	定点あたり	0.17			定点あたり	0.25	
岡山市	患者数	6	↗	備北	患者数	0	↘
	定点あたり	0.27			定点あたり	0.00	
倉敷市	患者数	2	↗	真庭	患者数	1	↗
	定点あたり	0.13			定点あたり	0.33	
備前	患者数	1	↘	美作	患者数	1	↘
	定点あたり	0.07			定点あたり	0.10	

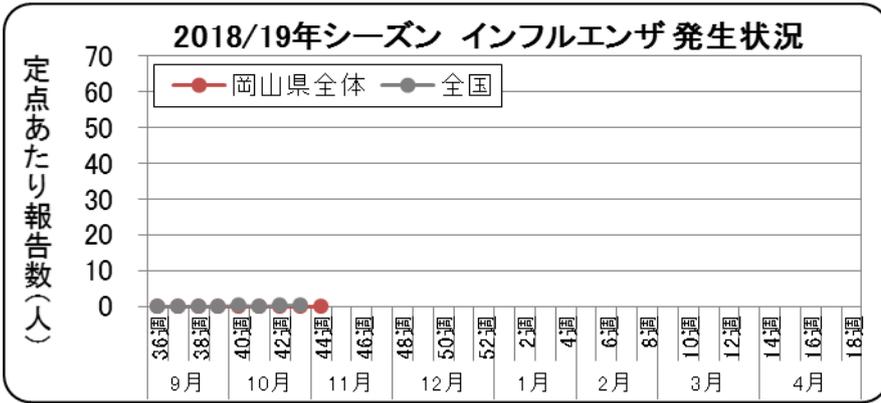
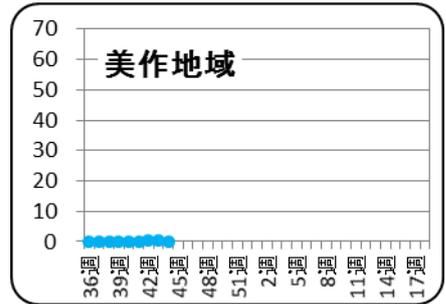
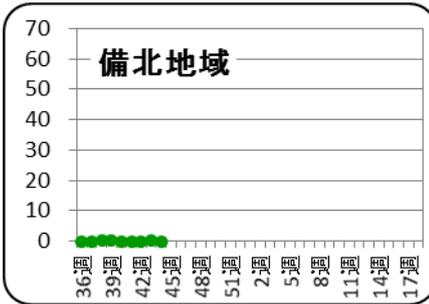
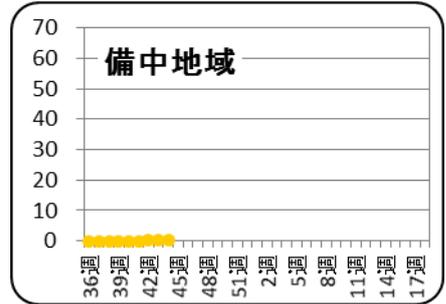
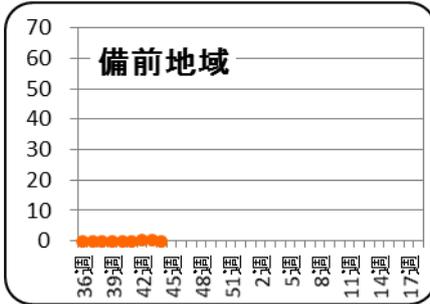
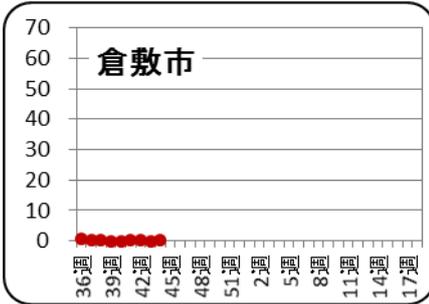
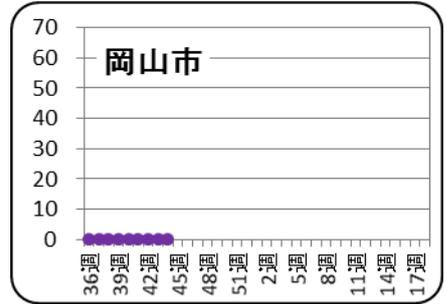
【記号の説明】 前週からの推移
 ↑ : 大幅な増加 ↗ : 増加 → : ほぼ増減なし ↓ : 大幅な減少 ↘ : 減少
 大幅 : 前週比100%以上の増減 増加・減少 : 前週比10～100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値	基準値	基準値
0 < 10 未満		0

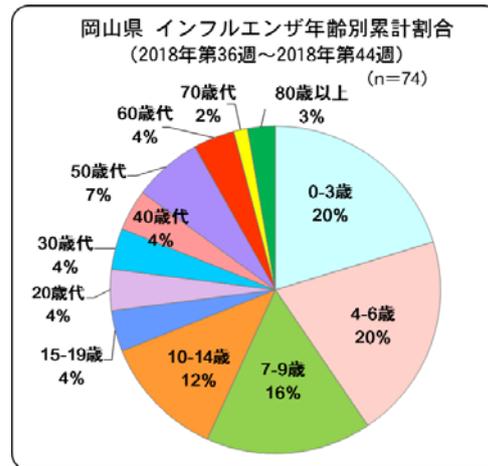


全国集計第43週（10/22～10/28）速報値によると、全国の定点あたり報告数は0.19人となり、前週（0.19人）と同じでした。都道府県別では、沖縄県（2.10人）、三重県（1.13人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

[インフルエンザの発生状況について](#)
(厚生労働省)

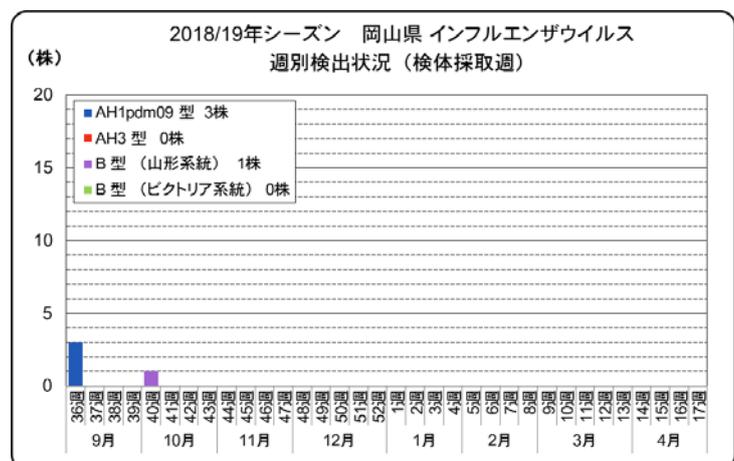
2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別類型割合は、0-3歳および4-6歳 20%、7-9歳 16%の順で高くなっています。



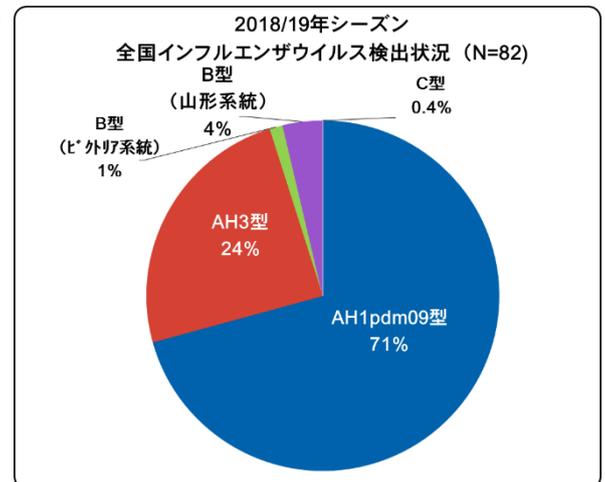
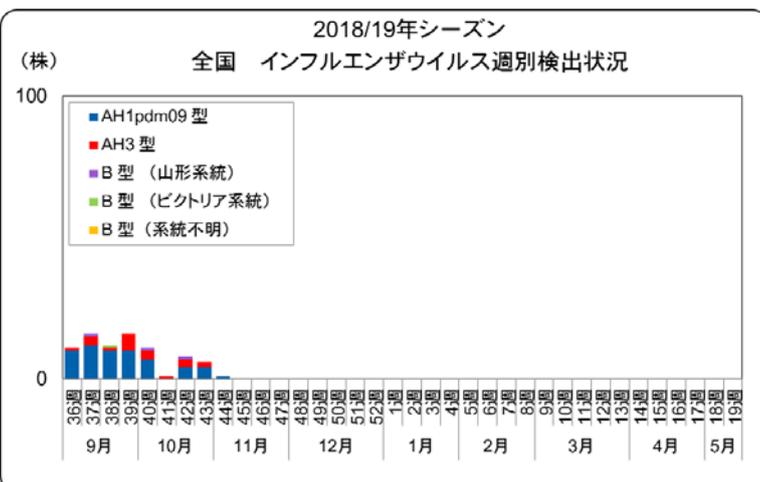
3. インフルエンザウイルス検出状況

第44週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。なお、第36週～第43週までに検出されたインフルエンザウイルスは4株（詳細は下表参照）でした。



ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスB型	2018年第40週(10/1～10/7)	2018/10/5	岡山市	中学生	男	集団発生事例山形系統
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2018年第36週(9/3～9/9)	2018/9/7	岡山市	幼児	男	集団発生事例
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2018年第36週(9/3～9/9)	2018/9/6	岡山市	幼児	男	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2018年第36週(9/3～9/9)	2018/9/6	岡山市	幼児	女	集団発生事例

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が20株、AH1pdm09型が58株、B型が4株〔山形系統3株・ビクトリア系統1株・系統不明0株〕となっています（11月2日現在）。

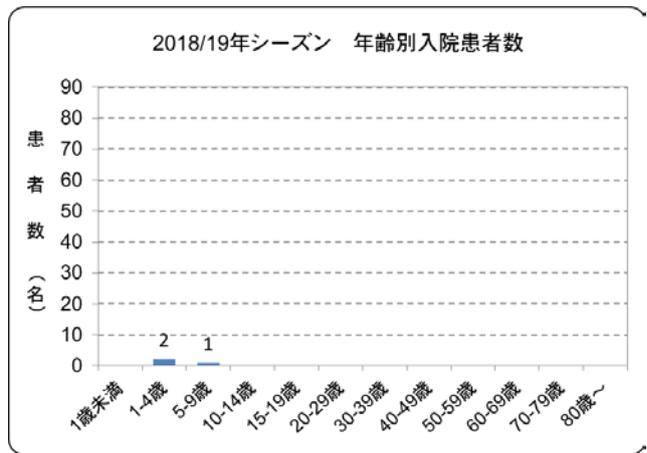
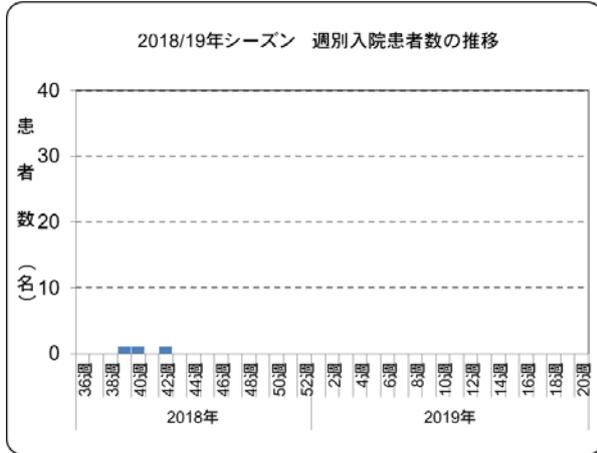


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、ありませんでした（なお、第 39 週に 1 施設の学校等の臨時休業がありました（岡山市）。）。

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



【2018年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数		2	1										3
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*													
頭部MRI検査(予定含)*													
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず		2	1										3

* 重複あり

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、2週間程度かかります。
本格的な流行がはじまる 12月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。
定期予防接種の対象者は、積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方も、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。
- 13歳以上の方は、1回接種を原則としています。

定期予防接種対象者

- * 65歳以上の方
- * 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障がいがあり、日常生活が非常に困難な方

- ◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。
- ◎定期予防接種については、接種できる期間が市町村によって異なりますので、お住まいの市町村担当課にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2018年 44週(定点把握)

(2018/10/29~2018/11/04)

2018年11月8日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	14	0.17	6	0.27	2	0.13	1	0.07	3	0.25	-	-	1	0.33	1	0.10
RSウイルス感染症	11	0.20	5	0.36	3	0.27	-	-	-	-	1	0.25	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	10	0.19	-	-	2	0.18	-	-	3	0.43	-	-	-	-	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	75	1.39	43	3.07	16	1.45	8	0.80	5	0.71	2	0.50	1	0.50	-	-
感染性胃腸炎	240	4.44	74	5.29	45	4.09	58	5.80	17	2.43	12	3.00	7	3.50	27	4.50
水痘	12	0.22	3	0.21	6	0.55	2	0.20	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	21	0.39	2	0.14	7	0.64	2	0.20	2	0.29	4	1.00	1	0.50	3	0.50
伝染性紅斑	3	0.06	-	-	1	0.09	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
突発性発疹	12	0.22	7	0.50	4	0.36	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	11	0.20	5	0.36	2	0.18	2	0.20	-	-	-	-	2	1.00	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	17	1.42	3	0.60	9	2.25	5	5.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 44週(発生レベル設定疾患)

(2018/10/29～2018/11/04)

2018年11月8日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	14	0.17	6	0.27	2	0.13	1	0.07	3	0.25	-	-	1	0.33	1	0.10
咽頭結膜熱	10	0.19	-	-	2	0.18	-	-	3	0.43	-	-	-	-	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	75	1.39	43	3.07	16	1.45	8	0.80	5	0.71	2	0.50	1	0.50	-	-
感染性胃腸炎	240	4.44	74	5.29	45	4.09	58	5.80	17	2.43	12	3.00	7	3.50	27	4.50
水痘	12	0.22	3	0.21	6	0.55	2	0.20	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	21	0.39	2	0.14	7	0.64	2	0.20	2	0.29	4	1.00	1	0.50	3	0.50
伝染性紅斑	3	0.06	-	-	1	0.09	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	11	0.20	5	0.36	2	0.18	2	0.20	-	-	-	-	2	1.00	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	17	1.42	3	0.60	9	2.25	5	5.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染区症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2018年 第44週 2018/10/29～2018/11/04)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	14	-	-	1	-	-	-	1	1	2	1	-	-	1	-	1	3	-	-	1	2

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	11	2	2	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	10	-	2	3	2	1	-	1	-	-	-	-	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	75	-	-	1	3	7	10	9	8	11	9	7	7	-	3
感染性胃腸炎	240	2	26	31	26	25	16	22	13	13	12	6	24	5	19
水痘	12	-	-	-	3	2	3	1	-	1	-	1	1	-	-
手足口病	21	-	2	10	4	2	1	-	-	-	1	1	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	
突発性発疹	12	1	8	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	11	-	-	4	5	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	17	-	-	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	5	5	1	2	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

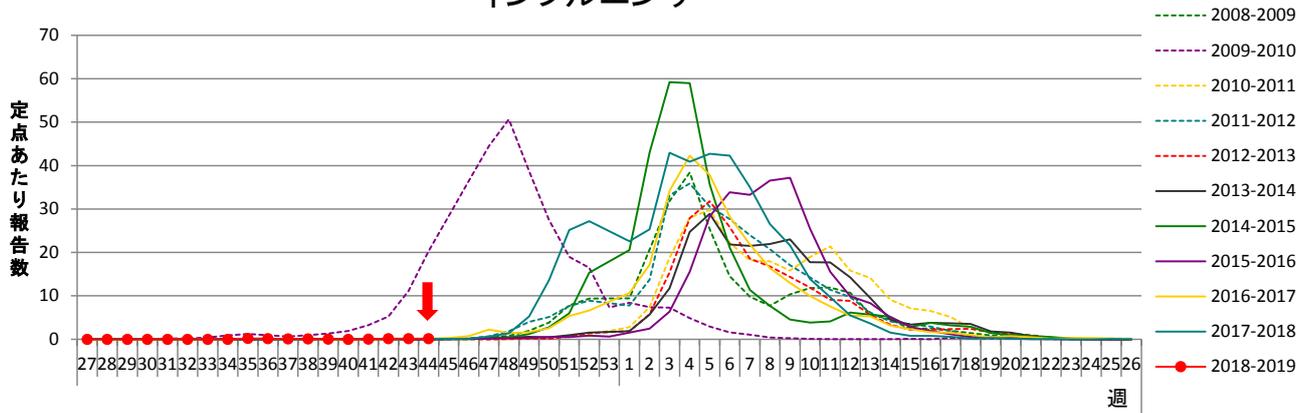
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

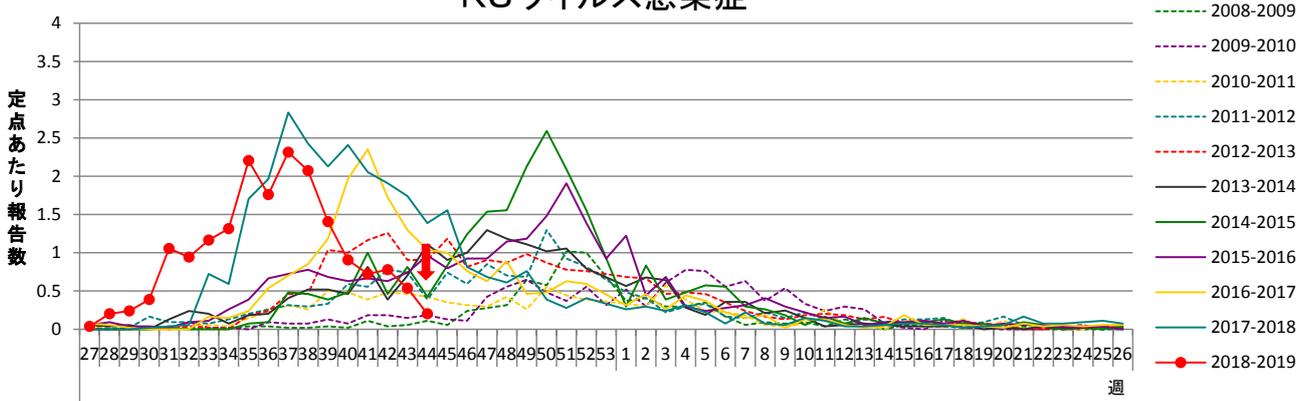
2018年 44週

分類	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	9	273	370	ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	-	16	3	腸管出血性大腸菌感染症	-	61	70	
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	5	
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	2	-	
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	1	
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	5	7	
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-	マラリア	-	-	-	
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	70	30	
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	15	22	ウイルス性肝炎	-	5	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	21	17
		急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	3	-	急性脳炎	-	6	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	3	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	13	9	後天性免疫不全症候群	-	15	22	
ジアルジア症		-	1	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-	
侵襲性肺炎球菌感染症		-	39	36	水痘(入院例に限る。)	-	3	6	先天性風しん症候群	-	-	-	
梅毒		-	141	172	播種性クリプトコックス症	-	2	1	破傷風	-	2	-	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	7	百日咳	2	145	-	
風しん		1	15	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	

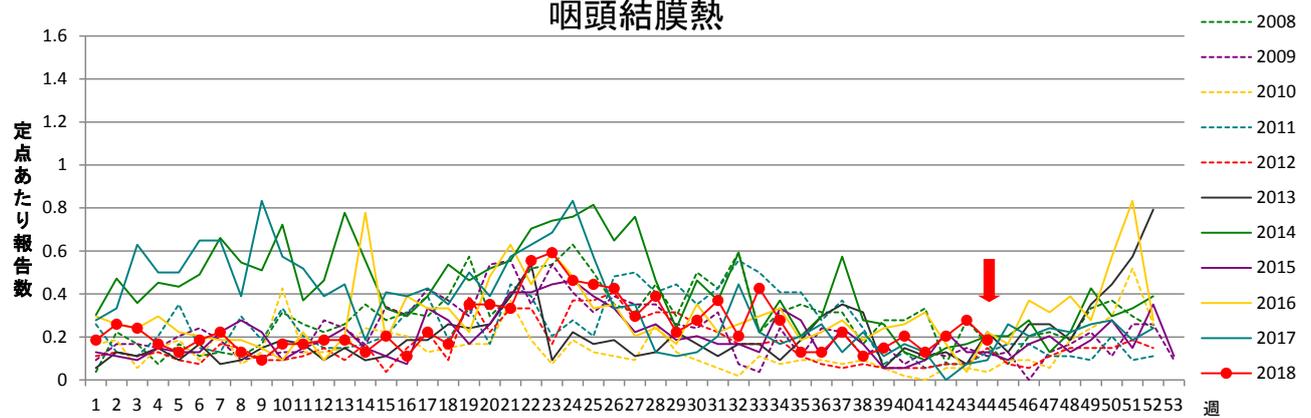
インフルエンザ



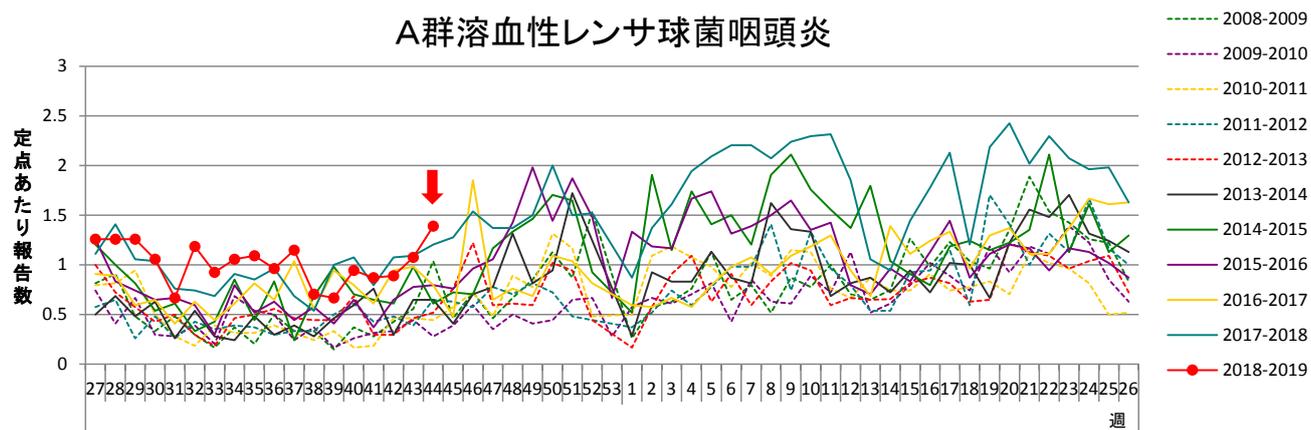
RSウイルス感染症



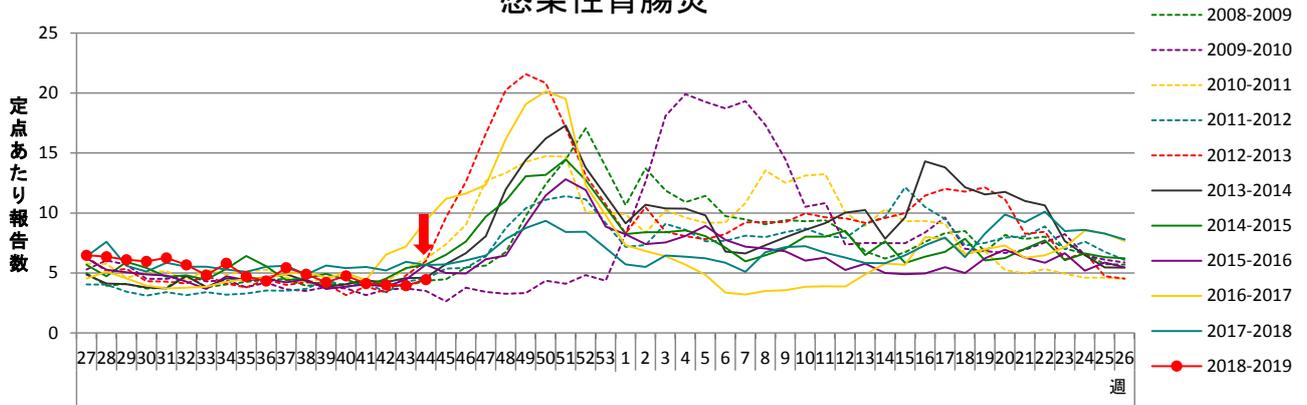
咽頭結膜熱



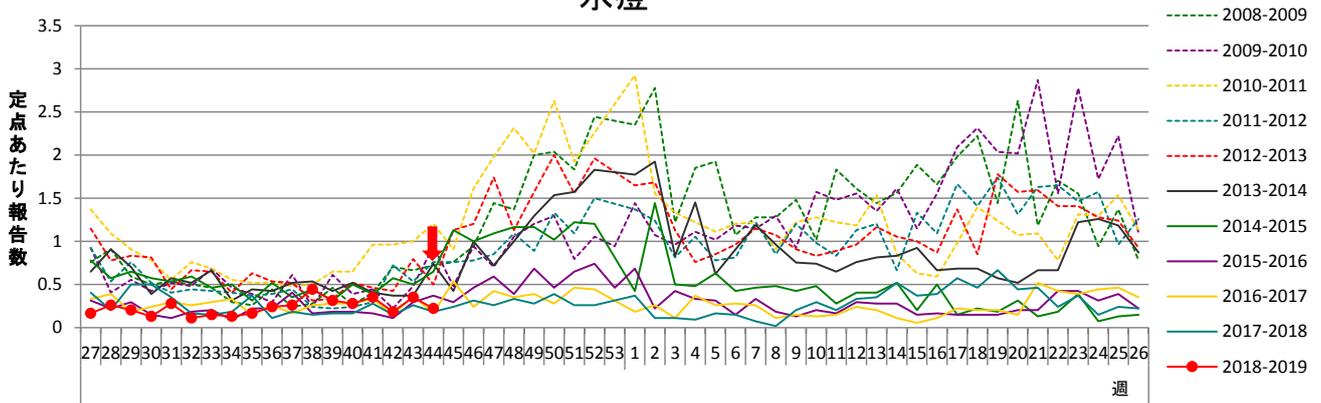
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



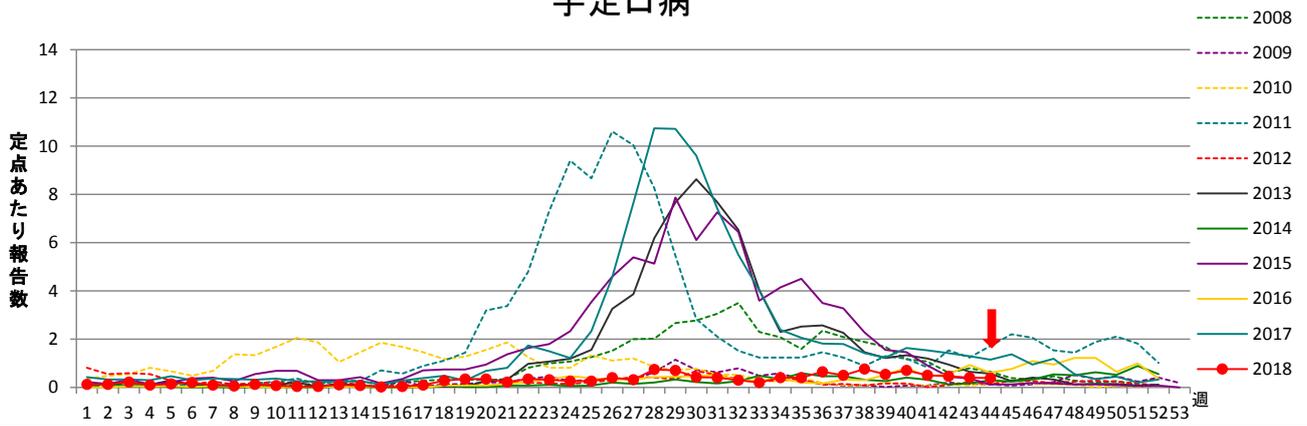
感染性胃腸炎



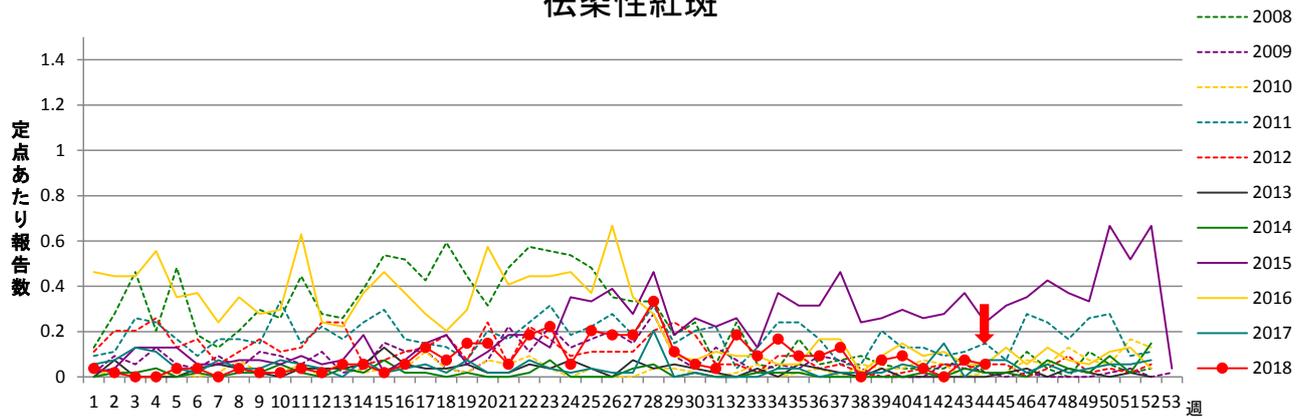
水痘



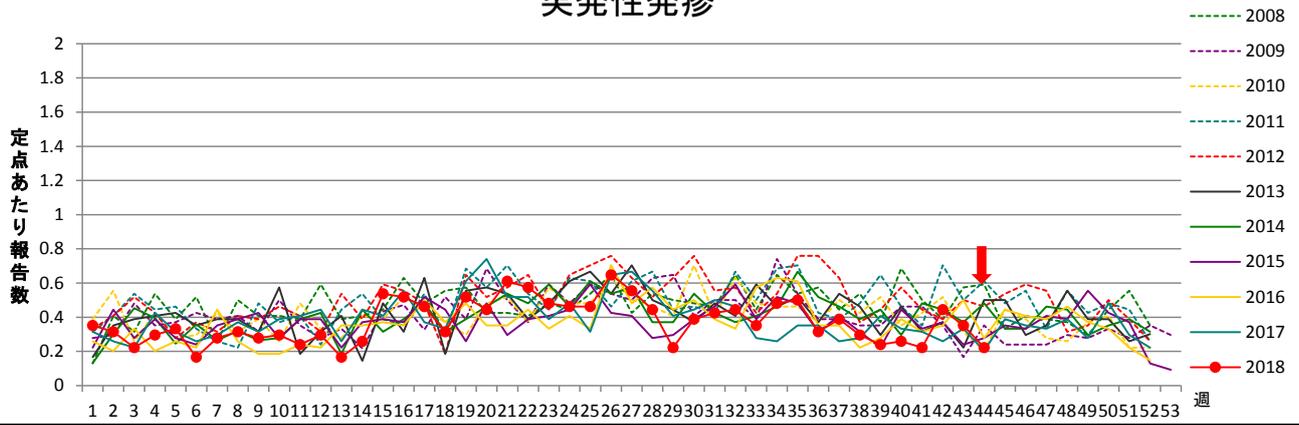
手足口病



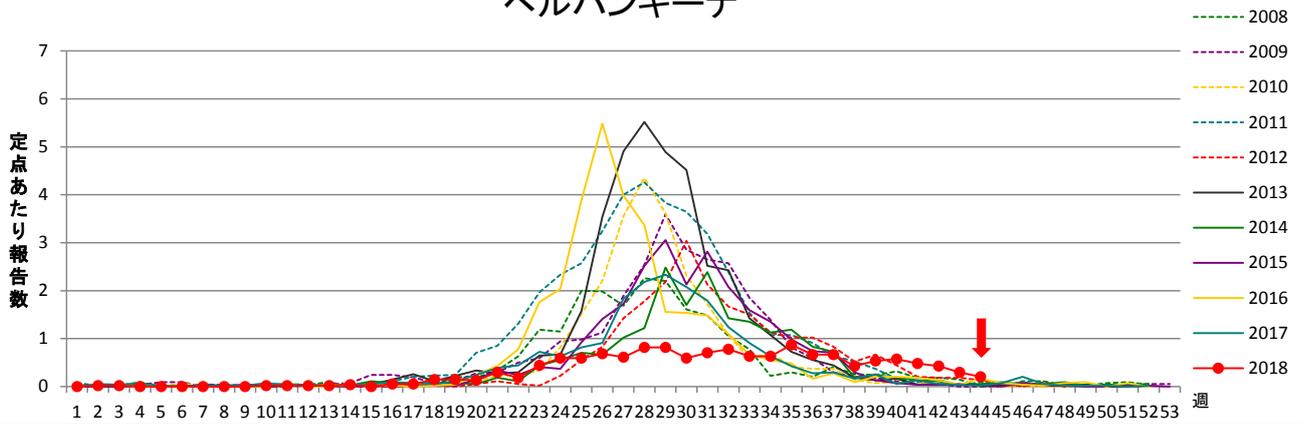
伝染性紅斑



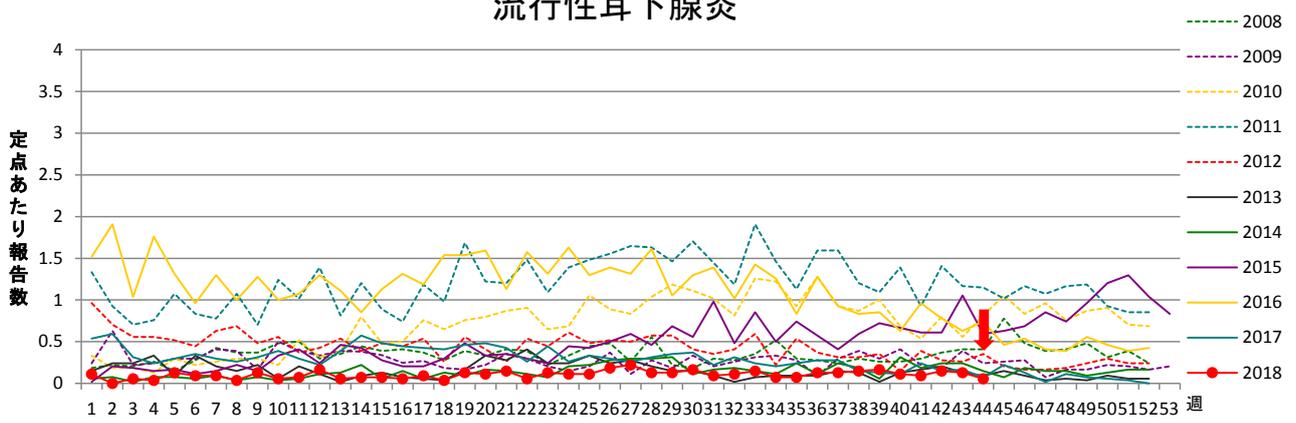
突発性発疹



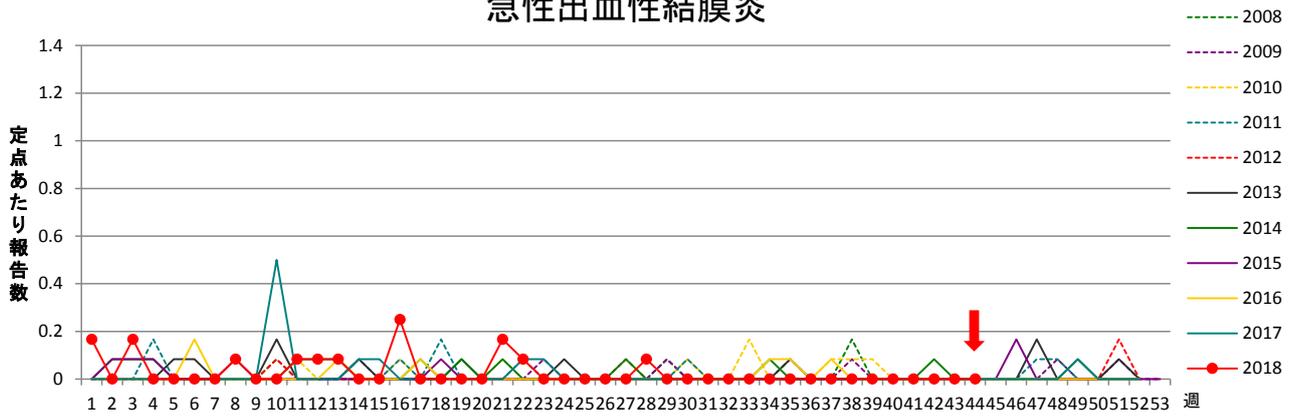
ヘルパンギーナ



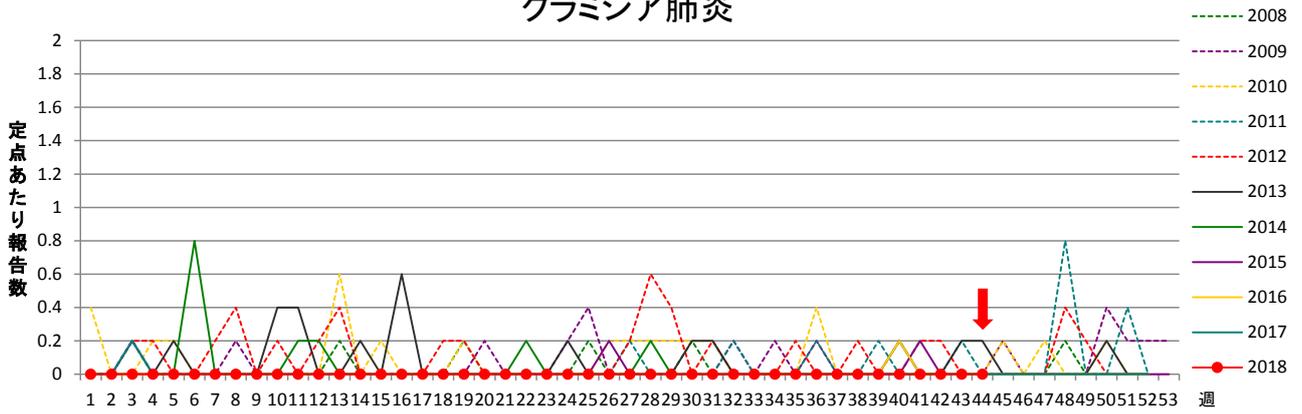
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

